

有識者議員懇談会 議事概要

- 日 時 平成 24 年 1 月 26 日 (木) 9:50~10:45
- 場 所 合同庁舎 4 号館 1214 特別会議室
- 出席者 相澤議員、奥村議員、今榮議員、白石議員、大西議員、梶田審議官、吉川審議官、大石審議官
- 議事概要

議題 1. 平成 23 年度科学技術戦略推進費及び科学技術振興調整費による実施プロジェクトの中間・事後評価結果等について

<文部科学省 大山科学技術・学術戦略官、科学技術振興機構 藤原 P D 補佐、岸 P O、清水 P O、山下 P O、村川 P O、豊田 P O、木村 P O、山村 P O 説明>

- 相澤議員 それでは、3種類の報告がございましたので、まず初めに、安全・安心の再審査の結果について、ご質問、ご意見がございましたらお願ひいたします。
奥村議員、この関係のところに關係しておられますので、何かコメントはございますでしょうか。
- 奥村議員 特にございません。
- 相澤議員 それでは、次の中間・事後評価の結果等について、ご質問、ご意見がございましたらお願ひいたします。
- 白石議員 中間評価については、予算の削減等の措置を講じると言われましたけれども、事後評価で B がついたときには何かあるのですか。
- 大山科学技術・学術戦略官 特にもう終わったプロジェクトでございますので、予算を減らすといったことはないわけですが、実施された機関に対して結果をお知らせして、特に振興調整費、戦略推進費のシステム改革ということで、このお金が切れた後も自助努力で続けていただくということになっておりますので、その中でいただいた意見をしっかり反映させながら取り組んでいただくということで考えております。
- 奥村議員 これは我々の課題でもあると思うのですが、このシステム改革という課題はその機関のマネジメント能力が主題なのです。今回もある特定の大学はきわめて相対として多く B とか C とかの評価を受けている。したがって、個別のプロジェクトの評価については今ご説明のあったようなことだと思いますけれども、こういうシステム改革を今後、募集するときには、その機関のマネジメント能力、今回のようなマネジメント実績を考慮するとか、そういう検討をより加速していく必要が私はあるのではないかと思います。そうすることが 4 期計画で狙っている P D C A サイクルを回すことに繋がる。
- 大西議員 個別ですけれども、C の評価のところが 1 つあったと思うのですけれども、そのコメントで、条件つきでということで継続をしてもらうということでありましたけれども、

その条件は具体的にはどんなものでしょうか。女性研究者養成システム改革加速の京都大学です。

○山村ＰＯ　条件は4つをつけてございまして、まず1つ目が女性研究者の採用目標を達成するための女性研究者が応募しやすい公募のあり方を検討していただくとともに、採用者の増加につながるような効果的なポジティブアクションの具体策を講じていただくというのが1つ目でございます。そして、2つ目の条件が女性研究者の採用目標に関して、国の財政状況によるもの以外の削減は行わないことということでございます。そして、3つ目は、本部と部局が連携して女性研究者の採用、養成を加速するシステム改革を実現するために総長のリーダーシップのもと実施体制を強化するということでございます。そして、4つ目は、女性教育の高い流動性について要因を分析し、必要な方策を講じること。この4条件としております。

○大西議員　もともとあった枠を設けない一般公募で72名という、これは変えないのですか。

○山村ＰＯ　そうです。これは変えずにやっていただくということでございます。審査のときに非常に高い目標であったけれども、機関からそれは公募の分野を広げる等の努力をして実現可能であるというご意見でしたので、目標値は達成していただくということになっております。

○大西議員　だんだんハードルが高くなっていく、72名で。

○山村ＰＯ　3年間で72名ですから、毎年16名ずつ採用するという予定でございます。

○大西議員　まだできてないので、毎年対応すればいいというように考えているわけですか。

○山村ＰＯ　プログラムといたしましては、達成できなかつた人数は次年度採用していただくということになっております。そちらに關しましては、今後どういたしますか、文部科学省とご相談したいと思います。

○白石議員　もちろん判断されるのは委員の先生方がされることなのですけれども、一応コメントとして申し上げますと、中間評価、事後評価のこの評価の分布を見ましても、Bは相当厳しくて、Cになったらほとんど箸にも棒にもかからないというのが実際のところではないかと思うんですね。そのときに聞いていると非常に優しい、優しいって、ジェントルな要件のように私には思えて仕方ありません。事後評価についても私は奥村先生と全く同感でございまして、終わりました、だから何かお伝えしますということで事後評価がなされているとは全く思いませんので、そのところはもう少し考えていただきたいと思います。

○山村ＰＯ　京都大学のコメントでございますけれども、若干少しソフトにしてございますけれども、やはりC評価というのは非常に厳しいものだというのは機関のほうも認識されると思います。

○文部科学省 猪股人材政策企画官 基盤政策課でございます。先ほど奥村議員がご指摘されたシステム改革がきちんとその後続いているのか。事後評価についてもきちんと反映させるような仕組みを考えるべきではないかと、非常にありがたいご意見をいただきました。少しご紹介させていただければと思っての発言ですが、本年度からテニアトラック普及・定着事業を文部科学省は始めました。その公募条件の中に今24年度分の公募を開始し

ているところですが、この旧調整費での実績をきちんと評価基準の中に入れ込む形でやはり事後評価、中間評価、各大学の実績が次の補助事業に活かせる形を工夫しておりますので、ご紹介させていただきたいと思います。

○相澤議員 ぜひ、その点を検討いただきたいと思います。

システム改革の絡みだとは思われるのですが、コメントの中に教員の意識改革という表現がありましたが、これは具体的にどういうところを指摘し、どういう具体的な改革を期待するのか、そこを明確でなかったので、ご説明いただけますか。

○木村PO 博士の学生とか、ポストドクターが産業界に出てほしい。そういうためにやはり時間をつくって、教員が積極的に本当は外に出してもらいたいのですけれども、教員が研究室の研究のほうを優先させて外に出したがらない。それではやはり教員にとっても学生にとっても産業界にとっても非常に困ることがある。教員がもっと自分の学生なりポストドクターを産業界に出すための意識をもってもらって、そういうキャリア開発のための時間、または予算、その他も考えてほしい。それができないので、外に出したがらないので、教員が「ノー」と言って、インターンシップに行かせないとという例もあるわけです。そういうことを教員の意識改革と言っています。

○奥村議員 せっかく各プログラムご担当の先生方もお見えいただいているので、私からのお願いです。文一3の評価結果概要というところを拝見していますと、私の印象ではやはり個別課題のミッションステートメントに対する個別評価が中心かなという印象を持ちますが、基本的にはこれは先ほども申しましたように、それぞれの機関のシステム改革を狙っているもので、いかに定着し継続していくのかというところの仕組みの改革が極めて重要なわけです。これを各機関で定着させようとしますと、何らかのまさに組織的な、マネジメントの何かを変えないとできないはずです。ここのハードルが高いはずなので、そのことの評価をこの概要の中にやはり明示して記述していただけすると、複数あるプロジェクトを相互比較してプログラム全体として見やすくなるのではないか。1つ1つのミッションステートメントだけ記述されても、なかなか相互の比較がしにくい。そういう意味で、プログラムの趣旨に沿ったように、今、申し上げたような点を重視して記述していただけるとありがたい。

○相澤議員 個別施策については、ただいまの点の評価を行っているわけです。これは確認ですけれども、システム改革についてどの程度の進捗状況か。

○大山科学技術・学術戦略官 それはもちろんそれぞれ見ていています。

○相澤議員 この中身が具体的にあるわけですね。

○大山科学技術・学術戦略官 はい。

○相澤議員 ですから、そういうことをもっと顕在化することと、それから、それを個別施策の縦割りだけではなく、全体として明確にできるようにというところですので、ぜひそれを反映させていただきたいと思います。

それでは、最後のプログラムですが、追跡評価であります。これは振興調整費として実施されたものであります。それでは、この件につきましてご質問、ご意見がございましたらお願ひいたします。

- 白石議員 大変基本的な質問ですけれども、これは投入資金総額は幾らでしょうか。
- 村川PO 1プロジェクトあたりは2,000万から1億。初年度は1,000万から1億となっておりますが、総額については現在手元に数字がございません。申し訳ございません。
- 白石議員 いや、大ざっぱな数字で。
- 大山科学技術・学術戦略官 ばらつきがございますが、1プロジェクトあたりが2,000万から1億程度で、それで全採択数が76となっておりますので。
- 白石議員 1件5,000万としたら、35、6億。
- 大山科学技術・学術戦略官 1年で、2,000万から1億。それが3年間続きます。ですから、1件あたり平均して1.5億ぐらいで、それで76プロジェクトですから、100億ぐらいだと思います。
- 白石議員 もちろん評価をどう置くかなのですけれども、100億ぐらい投入して、年商が数千万以上のものが1割で、それで成功したと言い切っていいものかどうか。その辺はいかがでしょうか。
- 村川PO 公募要領には実用化という言葉の記載がございますが、実用化につきまして定義がございません。実際にアンケートをとりますと、もともと営利目的、事業的なものをを目指していないというような回答も散見されまして、具体的には国際標準の規格をつくるとか、いろいろございました。したがいまして、いわゆる金額だけで全部調査するのは難しいと判断しております。
- 奥村議員 ただいまのお答えでプログラム全体の投入予算としての総額が出てこないというのは、いかにプログラムとしてとらえてないかということの証左でもあると思うんですね、残念ながら。プログラムですので、個別評価の最後の分析結果が単純平均でははっきり言って困る。要するに、うまくいったケースはどういうケースであり、ベストプラクティスを取り上げればいいと思います。そういう分析がないと、これはその後のプログラム評価もできないわけです。累計や平均で示すデータも基礎データなのですが、分析はもう一歩これから行う必要がある。
- それから、もう1つ、これはマッチングファンドの走りと言いますか、それで皆さん期待しているプログラムであったので、相手先の企業名がどこにも出てこないというのも、整理の仕方としていかがなものかというのはもう1点の指摘です。まだいろいろありますけれども、基本的なところのみ指摘したい。やはりプログラムとしてとらえることとマッチングファンドという本来の趣旨に沿った整理の仕方があるのではないか。
- 相澤議員 これは最終報告がこのプロジェクトの終了年度に行われましたでしょうか。明確な記憶がないのですが。
- 大山科学技術・学術戦略官 事後評価は、通常やってございますので、ご報告させていただいております。
- 相澤議員 そのときには今のどれだけの予算が投入されたかとか、それからマッチングファンドのカウンターパートになった企業、そういうようなのが全部データとして整理されて報告されていたのかどうかなのですが。そこはどうでしょうか。
- 大山科学技術・学術戦略官 すみません。私も今現物が手元にないのですけれども、通常事後評価

できちんと見るべき項目については、細かく見た上で、ご報告させていただいているはずです。

○相澤議員 だから、それがあれば、それを参考資料として付しておくということが必要ではないかと思います。

それから、ただいまのマッチングファンドにより産業界から投入された金額がいろいろな意味でデータ的に整理されてないのです。ですから、産学連携をいろいろと言っているときに、国がこれだけのことを補助したということで、カウンターパートはどうなったのかということが出ておりませんので、これについてはデータがあるはずですので、ぜひ資料としてまとめておいていただきたいと思います。

それでは、以上、3種類のプロジェクトについての中間事後評価等についての報告は終了させていただきます。

議題2. 米国大統領の一般教書演説について

<廣田参事官説明>

(特に意見等なし)

(以上)